

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.36 (新緑号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 21年 5月 1日発行

第9回総会・環境講演会を開催しました

第9回総会及び環境講演会を3月28日(土)に高山市民文化会館に於いて開催しました。環境講演会は西條好迪岐阜大学准教授を講師に迎えて『今、高山帯が危ない』—高山帯の自然環境の急変とシカの採食圧の影響—と題して近年、高山帯にまで進出してきたシカによる食害について現状と、今後の課題を話していただきました。講演では、自然環境全般を見ると温暖化による影響が見られ始めている。シカの日撃例、食害が増えているが、単純にシカが増えているからいけないと考えてはならない。地域によって様々な要因がある。北アルプスでは今のところ問題とはなっていないが今後可能性がある。その場合のことも考えてこれからどのようにしていったらよいのか提起していただきたいと話を結ばれました。(6・7ページに要旨掲載)

引き続き行われた第9回総会では平成20年の事業、決算報告、21年の事業計画、予算などを審議し、承認されました。(2・3ページ参照)

乗鞍スカイライン『マイカー規制』来年度が正念場

4月6日に「乗鞍自動車利用適正化協議会」が開かれ、今年度の振興策などが承認。昨年度より協議されていた夫婦松までの早期通行について、今季は断念となった。事務局から事業費について、このままで行くと平成22年度の事業費の予測が赤字の見通しになると報告された。それを回避するため、事業費の大半を占める除雪費用を減らすために自然融雪を待つての開通にするのか、規制緩和してマイカー利用者から協力金を徴収するのか、今後の協議が大変気になる。画期的とも云われたマイカー規制が7年目にして早くも岐路に立たされている。

各種事業を開催します

会員親睦や当会の活動を知っていただくために今年度も様々な事業を開催します。ほとんどの行事で参加費は要りません。ぜひとも友人知人を誘ってご参加ください。

- 公開講座『自然談話室』・・・5月15日・6月19日・7月3日
- 自然観察会 乗鞍岳・・・6月14日
- 小野木三郎の植物図譜展・・・6月30日～7月5日

第9回総会

3月28日(土) 於 高山市民文化会館

1. 開会 司会進行：松崎
2. 会長あいさつ 飯田洋
3. 議長選出 伊藤茂
4. 議題 平成20年会務・事業報告 事務局・宝田
平成20年収支決算報告・会計監査報告 会計・佐藤、監査・向田
平成21年事業計画 事務局・宝田
平成21年予算案 会計・佐藤
その他報告
5. 閉会のことば 木下副会長

◎ 平成20年会務報告

- 1) 会員状況： 20年末 会員数 118 (個人・家族114、団体4)
- 2) 会議関係： 総会 平成20年3月8日 ・ 運営委員会 毎月1回開催

◎ 平成20年事業報告

- 1) 第8回総会・講演 3月8日 高山市民文化会館
『干潟のいのちがつなぐもの』 講師 ・辻 敦夫 氏 (藤前干潟を守る会)
- 2) 春の自然観察会 5月25日 位山
- 3) アサギマダラマーキング会 9月7日 御嶽山麓
- 4) 御嶽山麓秋の自然観察会「タカの渡り」 9月23日
- 5) 環境講演会 『森林の危機』 講師 飯田洋 11月29日
- 6) 季刊の会員だより 『くらがね通信』 No. 31・32・33・34 発行送付
- 7) どんぐりころころ大作戦 (飛騨森林管理局主催) 11月15日

◎ 平成21年事業計画

- 1) 自然観察会 6月14日 乗鞍岳 ・10月 日 御岳周辺
- 2) アサギマダラマーキング 9月上旬 指導・鈴木俊文さん
- 3) 環境講演会 11月・3月 (総会同時開催)
- 4) 公開講座 『自然談話室』
5月15日(金)「知ってましたか？花の知恵」 小野木 文化会館
6月19日(金)「ボルネオの自然」 飯田 〃
7月3日(金)「生物多様性って？」 小野木 〃
9月25日(金)「皇居の自然って面白い！」 小野木 〃
- 5) 季刊の会員だより 『くらがね通信』 発行送付 (年4回)
- 6) 小野木三郎植物図譜展 ～飛騨の植生～ 6月30日～7月5日
- 7) 環境行政についての要望書・意見書の提出 (御嶽山・その他随時)
- 8) その他、調査活動等
飛騨地域での気になる場所、注目すべき場所等の情報収集

◎ 平成 20 年収支決算報告、21 年予算案

平成 20 年決算 (1 月～12 月)

(収入の部)

	金額	備考
平成 19 年繰越	720,019	
個人 97	222,000	年会費 2,000 円 複数年含
家族 12	36,000	年会費 3,000 円
団体 4	25,000	年会費 5,000 円 複数年含
雑収入	2,000	寄付 (富田様)
貯金利子	1,072	
事業収入	8,000	観察会参加費
合計	1,014,091	

(支出の部)

	金額	備考
会議費	6,750	文化会館使用料
通信費	75,812	郵送料・切手・葉書
事務費	7,001	コピー・封筒・テープ・ラベル
印刷費	38,164	くらがね通信 (年 4 回発行) 他
事業費	165,450	講師謝礼、宿泊、交通費 観察会バス代 他
合計	293,177	

平成 21 年予算案

(収入の部)

	金額
繰越金	720,914
会費	300,000
合計	1,020,914

(支出の部)

	金額
会議費	10,000
通信費	100,000
事務費	10,000
印刷費	60,000
事業費	200,000
予備費	640,914
合計	1,020,914

1,014,091 (収入) - 293,177 (支出) = 720,914 (次年に繰越)

監査の結果 適正に処理されていると認めます。

平成 21 年 11 月 28 日

監事

向田真

米澤智子

◎ その他報告 合併記念公園整備

高山市は 19・20 年度で合併記念公園整備を終え順次公開、開放されている。この計画の一部について当会が 19 年に要望書を提出してから、計画が変更され整備を終えた。(くらがね通信に既報)

ただ、当会として特別に守らなければならない環境と考えていなかった原山地区の整備で、面白いことが行われていた。原山の駐車場のかたわらに整備計画以前からトイレが 2 箇所、松倉城址分岐に 1 箇所設置されていたが、新たに散策路途中の池のほとりと山頂の 2 箇所にバイオトイレが設置された。駐車場から山頂を経由して松倉城址分岐まで約 2km の区間にトイレが 5 箇所出来たことになる。多くの人々が山歩きを楽しむようになってきて山岳地のトイレ問題は深刻だが、原山のような身近な山に高額なバイオトイレが必要だったのか。山へ入る前にトイレを済ますことを啓発・啓蒙していくべきだったのではないかと考える。

◎ 運営委員（任期：20・21年の2年間）

会長 飯田洋 副会長 小野木三郎・直井清正・木下喜代男
事務局長 宝田延彦 庶務 住寿美子
運営委員 伊藤茂・大野敏雄・松崎まみ・古橋洋子・田之本克己
会計 佐藤八重子
監事 向田真一・米澤智子

行事案内

☆ 公開講座『自然談話室』各講座とも午後7時より高山市民文化会館にて開催。

5月15日（金）「知ってましたか？花の知恵」 小野木 三郎

野山に咲いている小さな花や大きな樹木などが子孫を残すための様々な方法・知恵の話

6月19日（金）「ボルネオの自然」 飯田 洋

視察に訪れたインドネシア ボルネオ島の写真をスライドで紹介

7月 3日（金）「生物多様性って？」 小野木 三郎

同時開催中の植物図譜展関連企画。

知っているようで知らない生物多様性をわかりやすく解説

☆ 小野木三郎の植物図譜展 ～飛驒の植生～

日 時： 6月30日（火）～7月5日（日）

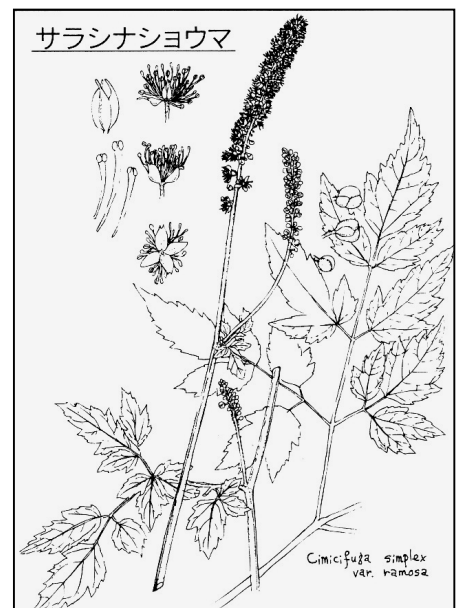
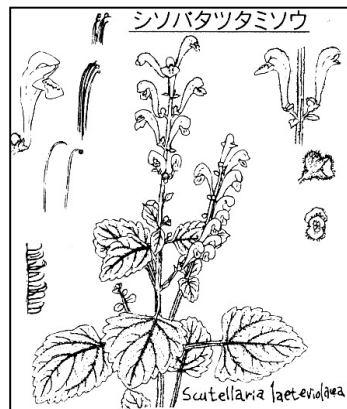
会 場： 高山市民文化会館 2F展示室

30日 = 12:00～20:00

1日～4日 = 9:00～20:00

5日 = 9:00～19:00

これまでに描いてきた植物の精密画・写真・解説図表等で植物を見る楽しさを感じてください。



☆自然観察会

残雪期の乗鞍の自然

6月は人里では初夏の陽気ですが標高2,400mの乗鞍岳畳平周辺にはまだ雪が残っています。お花畑もまだ雪の下ですが確実に夏に向かっていきます。ライチョウは岩の上で縄張りを見張っている時期でもあります。高山植物の開花にはまだ早いですがこの時期の乗鞍の自然を肌で感じて見ませんか？（山頂、剣ヶ峰へは登りません。）

日時： 6月14日（日） 集合： 午前8時 ほおのき平駐車場

午前8時25分のシャトルバスで乗鞍へ向かい、畳平周辺、桔梗ヶ原などを散策。

午後3時頃 乗鞍から下山、ほおのき平にて解散。

（当日の悪天候で登れない場合は現地にて協議、変更場所へ移動します）

（変更場所：平湯、平湯峠など。お楽しみに）

会費：大人 1,000円 子ども 500円

[シャトルバス代(往復)大人2,200円・子ども1,100円ですが不足分は当会が負担します]

持ち物：雨具、防寒具(手袋も)、お弁当、飲み物等

（快晴だと汗をかきますが、雨天や風が強いと体温が奪われます。防寒対策は充分にしてください）

※ 問い合わせ：宝田延彦 0577-34-1287（前日まで）

御嶽山展望スポット

その1. 高根町日和田

日本を代表する富士山。日本各地にも正式名称の他にこの富士を使って“〇〇富士”と呼ばれ親しまれている山が多くあります。今回から取り上げる御嶽山も高根町日和田



では“日和田富士”と呼ばれています。ここから見られるのは御嶽山の中の継子岳（2,859m）ですが、やはり“富士山”ですね。写真は日和田の留之原地区（1,300m）からの撮影。

講師： 西條好迪 氏

今日のタイトル、『今、高山帯が危ない』ということについてのきっかけになったのは、日本山岳会自然保護委員会のシカ問題プロジェクトに取り組むようになったことである。

シカ食物消化のしくみ

シカは牛と同じ反芻動物であり消化器官は四つの胃で構成され、口から入った食べ物は、第一の胃—口—第二の胃—口・・・と繰り返す。胃の中に入った食べ物は自ら消化するのではなく、胃の中に寄生する微生物により分解し、発酵させながらそれを栄養素として取り込み、糞となって排出される。

シカの採食行動

餌を獲るための行動に季節的変化があるのか。過去に丹沢や南アルプスで行った調査によると、冬は南斜面の針葉樹林帯（亜高山帯）で生活しているが、林床は貧弱なのでこの時期に皮剥ぎを行っているようだ。

雪解けの頃、グループに分かれ餌をとるために行動していて、この時期に高山帯へも進入している。冬場の餌として多いものから、イネ科のササ類、常緑のスゲ、イネ科の草本類、落葉広葉樹の落葉、常緑広葉樹の葉となっている。

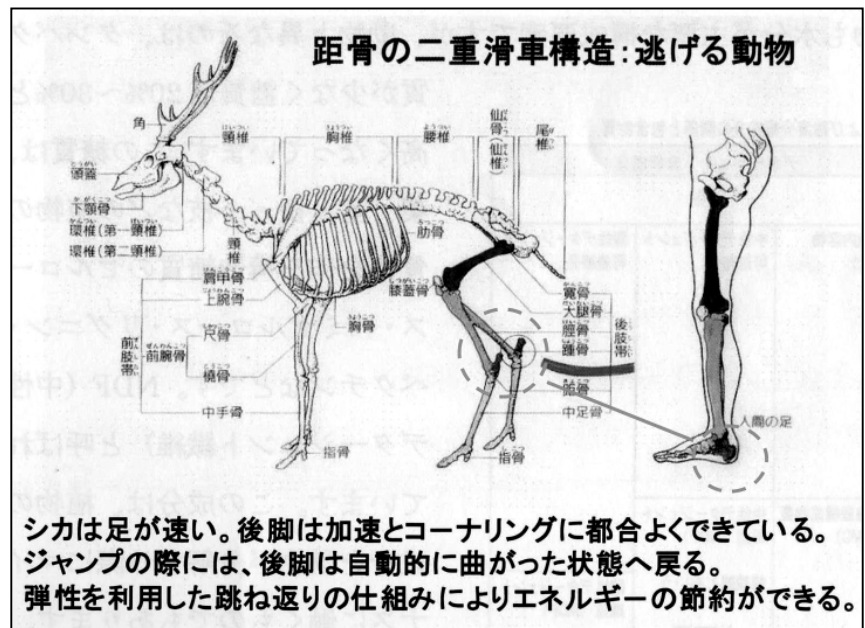
雪解け後の採食場所は、休む場所付近の、林間に穴が空いているところから光が差し込み林床の草本類が繁茂しているところで食べている。採食場所は、グループによって違うが、同じ場所で摂るときはグループによ



って利用する時間が違っている。また雄は交尾期だけ雌と一緒にいることがあるが、それ以外は離れて行動していて雌雄一緒というのは稀である。

植物が繁茂している時期は出産期にも当たり、イネ科の植物を食べているが、ササ類はあまり食べない。ササは冬の重要な食料となっているのではないかと。他にマメ科の植物も意外と多く摂られている。

交尾期に雄と雌の行動圏が重なっていたのが、初雪が降る頃にはバラバラになる。その頃の食料は広葉草本類や落葉などである。



(スライド解説から転載)

シカの体の作り

雪がかかと以上（腹が使える深さ）に積もると動けなくなるのでそれ以下のところで生活している。シカの食害で問題になっている大台ヶ原にはミヤコザサが繁っているが、ミヤコザサは雪の多いところにはあまり生えていない。（積雪が50cm以下）だから冬でもシカが生活しているということになる。

シカの食害の現状と原因

餌の好みを見ると、シカは本来、森林性の動物でなく草原性の動物であることが分かる。（日本各地のシカによる被害地域の様子、防除対策などをスライドで紹介、解説）

草原性のシカが何故森林内で見かけるようになってきたのか。それは林間の空いた部分が採食場所になっている。空いた部分とは伐採や枯死木の増加によってなっている。特に枯死木の増加は、近年、カシノナガキクイムシによるミズナラの損傷があげられる。キクイムシが被害をもたらすのではなく、キクイムシに寄生している熱帯性の菌がナラの木の中に入って木を枯らしている。この菌が生きていられるということは温暖化を表わしているのではないだろうか。

個体数の増加として捉える場合は個体数が増えたのか、森林の面積が減って相対的に増加しているように見えるのか調べなければならない。



多雪地域で見られなかったシカが何故高山帯で見られるようになったのか、今のところ北アルプスでは見られないが、南アルプスでは3,000m級の山にもシカが上がってきている。ということは、こちらでは積雪量が減少し食料あるいは密度が増えて食料が減少しているのではないだろうか。それと、山腹斜面を利用するよりも、人間が作った林道、作業道を利用してきているのではないだろうか。つまり、除雪や圧雪されたところを活用して上っているのではないだろうか。

個体数の増加ということをついて見ると、草食性哺乳類が食物連鎖の中で頂点に立っているので、餌が豊富で生まれた子供が最初の冬を越せるかどうかで個体数は決まってくる。別の見方で、餌が足りなくなり移動することによって増えてきたのか、個体数が増え、餌が足りなくなると移動してきたのか地域によって問題が違ってくる。だから短絡的にシカが増えたからいけないと考えてはいけない。

私は研究者として事実は事実として捉えるが、具体的な対策は行政が行うものである。そこでシカの生態の詳細な解明をしなくてはならない。そのために皆さんの協力をお願いすることになります。そのひとつとして目撃情報を集めています。目撃されたら連絡をお願いします。

ライチョウをシンボルとして考えると、未来永劫棲んでいけるということは、高山環境を維持していく、そのためにも「乗鞍岳と飛騨の自然を考える会」も活動していると思いますが、私たちも同じ考えでいかなければならない。今のところ北アルプスでは問題になってはいないが、今後その可能性があるかもしれない。皆さんも高山環境を考えて、どのようにしていったらよいか貴会を通して発信していただきたい。

◎ 亜高山帯以上で鳥獣を目撃したら日本山岳会まで連絡してください。

※対象鳥獣・・・シカ、カモシカ、ライチョウ、クマ、地域で特有な野生鳥獣

○ 日本山岳会のホームページ <http://www.jac.or.jp/>

トップページの活動案内項目 → 山の鳥獣目撃レポートをクリック。

連絡事項、連絡先などが掲載されています。（平成25年までの予定で実施中）

乗鞍スカイライン『マイカー規制』

平成 15 年より開始された乗鞍スカイライン『マイカー規制』も今年で 7 年目となり、今年も 5 月 15 日より 10 月 30 日までの約半年間乗り入れができる。

昨年 12 月に行われた乗鞍自動車利用適正化協議会で『乗鞍自動車利用適正化方針』が「原則 3 年ごとを目途に見直す。」となったがこの「原則」により 2 年目の 22 年度より見直されるかもしれない。一つ目は事業経費の面から。2 つ目は昨年より話が出ている夫婦松駐車場までの乗り入れについてである。

協議会の事業経費は毎年約 3000 万円となっており、その内除雪費用が 2000 万円とゲート管理に伴う経費が約 900 万円かかっている。ゲート管理については削減が難しいが、問題は大半を占める除雪費用である。除雪はその年その年の積雪量により変動があるが、現在の 5 月 15 日開通に間に合わせるとすればこれまでどおりの 2000 万円はみなければならぬ。4 月 6 日に開かれた協議会で事務局より、これまでは前年の繰越金を取り崩してその経費に使われてきたのだが、今年度でそのすべてが使われてしまい、来年度では赤字が予想されるとの報告があった。協議会の収入（負担金）は高山市が 2000 万円、つまり税金からということになる。近年の財政が厳しい現状では、これ以上の税金投入は難しいと考えられ、現状の負担金内での通行規制を行うとする場合の最も有効なことは、当会が前々から訴えている自然融雪を待っての開通が望まれる。5 月 15 日にこだわらず当会が要望してきた長野県と同じ 7 月 1 日にすれば除雪費はほとんどかからない。

夫婦松までの早期乗り入れであるが、例年の除雪で 4 月中旬には夫婦松までは除雪がすんでいるようで対応可能との報告が出ている。ただ国立公園内ということもあり環境省との協議が必要とのことで今年は見送りになっていた。しかしこの区間はスカイラインの中でも急斜面が多く、なだれ、落石の恐れもある区間でもあり、よく工事が行われる区間でもある。また道路の勾配もきつく道路脇にある雪が解けて道路の凍結も予測される。除雪が可能とはいえ安定的な通行と十分な安全対策が求められる。

自然保護のためにと画期的なマイカー規制を始めてまだ 7 年、観光業界等が要望しているマイカー規制の緩和で乗り入れる利用者から協力金を徴収して財源にするということは時代に逆行・逆行することになりあってはならない。

■ 会 員 状 況： 平成 21 年 4 月末会員数 個人・家族 1 1 3 ・ 団体 3

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に
入会をおすすめください

- ・ 郵便振替 00800-8-129365
- ・ 振込先 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

くらがね通信 第 36 号 (新緑号) 平成 21 年 5 月 1 日発行

発行者 乗鞍岳と飛驒の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL (FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供 : 小池 潜

印刷 : アドプリンター